

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>利用者の生活歴を尊重し、地域の中でその人らしく暮らし続けるという理念を、全ての職員が理解し、つくりあげようとしている。</p>	<p>常に利用者のニーズに即した理念であるよう、見直しや改善を続けていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>カンファレンスや日々のミーティングに於いて常に運営理念の共有を再確認している。また職員の異動時は特に、理念の確認を全職員共通徹底して取り組んでいる。</p>	<p>今後も機会あるごとに確認し合い、理念共有を意識徹底していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>施設内に運営理念を明示し、家族をはじめ全ての来訪者に示している。説明を求められたときは十分な説明を行うようにしている。</p>	<p>今後も継続し取り組んでいきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>挨拶や身近な話を行うなど、日常的なつきあいができるよう努めている。また敷地内の散策を勧めるなど、気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを図っている。</p>	<p>より一層馴染みの関係を作れるよう努めていきたい。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>草刈りなどの地域活動に参加することで、可能な限りの交流に努めている。</p>	<p>今後も参加交流の実行に努めたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>ケアハウスとの合同コンサートを実施し、地域住民への参加を呼びかけるとともに、参加者の送迎等を行っている。</p>	<p>今後も積極的に計画実施して行きたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価については全職員が参加し、意見を出し合うとともに、あらためて日頃のサービスの確認、見直しに努めている。</p>	<p>評価を活かして改善に取り組んでいきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>十分な意見交換を行い、その内容をサービスの向上に活かせるよう検討している。</p>	<p>今後も全職員に運営推進会議の結果を報告し、現況の把握とより良質な支援へ反映させたい。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>法人本部が窓口となり、市町村担当者との連携を取り情報の提供をしながら、課題解決への取り組みを行っている。</p>	<p>情報をより一層身近に取り入れたサービスの提供を実施していきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>常に情報を収集し、ミーティングなどを通して話し合う機会を持っている。</p>	<p>研修・講習会へ積極的に参加し、最新の情報を得る機会を持ち、必要な支援提供ができるようにしていきたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>施設において虐待に関する全体の勉強会を実施するなど、学ぶ機会の確保と虐待の防止に努めている。</p>	<p>今後も様々な機会を利用し、職員の意識の向上を図っていきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退所時には十分な時間をかけ、丁寧な説明を行っている。また質問しやすい雰囲気づくりに努めている。</p>	<p>現状を継続していく。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>派遣相談員の訪問等、意見・不満・苦情の言える環境づくりを行っている。</p>	<p>派遣相談員からの報告書を職員全体で共有し、運営に活かしていくようにしたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>写真入りの便りを月1回定期的に出しており、受診後の要報告事項や、日常特に報告を必要とする事項は電話で報告をしている。金銭管理は月1回の報告と面会時の確認を行っている。</p>	<p>日々の暮らしの様子や施設からの連絡事項等を提示するなど、家族が来訪した機会を活かして、積極的に情報の提供を行っていききたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族に対するアンケートを年1回行っており、その検証を基に職員の意見交換を実施し改善している。またホーム内にご意見箱の設置とその旨の説明をし、気軽に投函できる場を設けている。</p>	<p>現況の継続を実施していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員個々と施設長との面接を実施し、職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>現況の継続を実施していく。</p>

グループホームなごみ(東雲)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>欠勤者等が出た場合には職員間の話し合いで勤務の調整を図り、必要な職員の確保を実施している。</p>		<p>現況の継続を実施していく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の配置異動は極力行わないようにしている。また職員が変わった場合には、継続されたケアが行われるよう十分に説明をしている。</p>		<p>離職を防ぐとともに、新しい職員が入ってきても継続されたケアができるよう引継ぎをきちんと行いたい。</p>
5. 人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を積極的に活用し、可能な限り職員全員が参加できる機会を確保している。またミーティングなどを利用し継続的な活かし方を実施している。</p>		<p>今後も研修への職員全員の参加を実施し、またカンファレンスなどにおける話し合いを通じ、日々の体験を学びにつなげていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会や講習会等に参加している。</p>		<p>交流できる機会には積極的に参加していきたい。活動の中からより質の高いサービス提供に向けての学びにしたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>一日の勤務の中で利用者に関わらない時間を持てるよう、業務を工夫している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員からの提案を取り入れるなど、職員自身が積極的に取り組む姿勢や努力を大切にしている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>				
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族からの情報を十分に収集するとともに、十分に時間をかけ本人を受け止め、信頼関係を築く努力をしている。</p>		<p>利用に至るまでに本人に不安が無いよう、一層の支援に努めていきたい。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている</p>	<p>十分に時間をかけ受けとめる努力をしている。</p>		<p>今後も継続して実施していきたい。</p>
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>いまその人にとって一番に必要な支援は何かを見極める努力をしている。</p>		<p>今後も継続して行っていきたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>家族との相談や事前面接を通じ、馴染みやすい工夫を考えている。</p>		<p>家族等と十分に話し合い、本人と家族にあった個別の利用開始に努めていきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>常に同じ目線に立ち、共に過ごし学ぶという姿勢を大切にしている。調理の方法を教えてもらったり一緒に考えたりしている。</p>	<p>一方的な関係にならないよう、共に生活し一緒に過ごしていく場となるよう支援していきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>互いに情報を共有し協力し合うことで、共に利用者を支えていくパートナーとしての関係を築けるよう努めている。</p>	<p>これからも関係の構築に努めていきたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会や外出、外泊などを提案することで、家族とのつながりを尊重している。</p>	<p>今後も家族とのよりよい関係を継続できる支援をしていきたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>知人や友人・家族等の面会や、外出への制限はないため、以前の馴染みの関係の方々が度々訪問してくださっている。また施設からも積極的に案内を行っている。</p>	<p>引き続きこれまでの馴染みの関係を継続していけるよう支援していきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士で会話をしているときは、その時間を大切にするよう見守りを行っている。また利用者同士が関わり合いを持てるよう、状態を観察しながら、積極的に声掛けをしている。</p>	<p>互いに相手を思いあい支え合える関係を築けるよう、職員が雰囲気作りを進めていきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も関わりを希望する利用者や家族には、施設での催しや行事を案内するとともに、随時相談を受け付けている。		今後も家族や利用者が訪れ易い雰囲気を作っていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の言葉や行動を真摯に受け止め、一人ひとりの希望や意向をしっかりと把握できるよう、ミーティングやカンファレンスを中心に検討している。		利用者本位の視点に立って検討する大切さを、職員間で再度確認していく。
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との普段の会話や関係の中から把握するよう努めている。またそれらの情報をミーティング等を通じ、職員全員が共有するようにしている。		得られた情報について、今後のために記録として残していける体制を整えていきたい。
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティング等での話し合いを通じ、現状の把握と情報の共有に努めている。		できる力・わかる力に注目した視点から、利用者の現状を総合的に把握していける方法を検討していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が面会に訪れた機会などに、現在の状況を伝えるとともに、家族の意見や意向を聞き、相談しながらケアに反映させている。		カンファレンス・ミーティング等を積極的に活用し、本人にとってなにが必要かを話し合っていきたい。

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>		<p>しっかりと暮らしを支えられる介護計画を作成できるよう取組んでいきたい。</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		<p>さらに具体的でわかり易い記録とし、計画の見直しに活かしていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>		<p>今後も地域資源の活用を考えていきたい。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		<p>必要に応じ本人や家族と相談しながら、他のサービスの利用も検討していきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>施設の運営推進会議に、包括支援センターの相談員に参加してもらうことで協働している。</p>		<p>今後も情報交換を活発にすることで、利用者への支援を継続していきたい。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前に協力医療機関がかかりつけ医となることを説明し、同意を得ている また主治医が訪問診療機関であり、定期的な往診により適切な医療が受けられるよう支援している。</p>		<p>希望があればそれまでの医療機関での受診ができるよう、必要に応じ支援している。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>法人グループ内の医療機関に専門医がおり、必要に応じ受診するなどの支援を行っている。</p>		<p>医療機関との連携を深めながら支援を継続したい。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪問看護の活用や職員内の看護師と相談し、健康管理や医療的な支援を行っている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>グループ法人内の医療関係者も含めて、入院時の医療機関とは情報交換を行っている。</p>		<p>入院時には他の利用者からの「一言カード」をお渡ししたり、職員が面会し励ましたりしている。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>本人や家族等の希望を聞きながら、かかりつけ医や法人内関係者等と相談を重ね、方針を決めるよう努めている。</p>		<p>可能な限り早期から方針を共有するとともに、状況の変化に合わせ繰り返し話し合いを重ねていきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>話し合いを基に医療機関との連携を図りながら支援していきたい。また利用者が充実した日々を過ごせるよう、自分達に出来ることが何かを考えていきたい。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>より内容の濃い詳細な情報を伝えられるようにしていきたい。</p>
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		<p>引き続きミーティングやカンファレンス等の機会を通じ、繰り返し徹底していきたい。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>勉強会や研修を通してコミュニケーションスキルの向上を目指し、思いや希望を表わせるよう積極的に働きかけていきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>ある程度の日課はあるが、それにとらわれ過ぎることなく思い思いのペースで過ごせるよう努めている。</p>		<p>今後も一人ひとりの生活のリズムを大切に、希望に添えるよう支援していきたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の意向を大切にしている。希望に応じ美容室等に出掛けたり、一緒に洋服を買いに出掛けたりしている。</p>		<p>髪型や服装は本人の希望で決めている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や盛り付け、片付け等はできるだけ利用者と共に行っている。職員も一緒に食事を取ることで、味付けの好みや好きな食べ物の話などしながら、楽しい時間となるよう心掛けている。</p>		<p>これからも可能な限り利用者のできる力の発揮や参加の場となるよう努めていきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>食後のコーヒーやお茶など、利用者が自宅で過ごしていたときの習慣が続けられるよう個別に対応している。</p>		<p>嫌いな食べ物や食べられない食品の代替品等、周囲の利用者への配慮も含め検討を行っていきたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンや習慣の把握し、早めの声かけやトイレ誘導を心掛け、オムツを使用しないよう努めている。</p>		<p>尊厳を大切に安易にオムツを使用することがないようにしていきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ある程度の時間は決まっているが、本人の希望に応じ夜間の入浴等も実施している。		話をしたりしながら、一人ひとりの好みに合わせてゆっくりと入浴を楽しんでいただいている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や状況に応じ、休息を促すなどの支援を行っている。		特に食後はゆったりとした時間を過ごせるよう支援している。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の今までの生活習慣などを検討しながら拭き掃除や食事の盛り付け、洗濯たたみ等していただいている。また自宅にいた頃の趣味が続けられるよう環境を整えている。		現在も行っているが、さらに一人ひとりの生活歴や希望に注目し支援していきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望のある方にはお金を所持していただいている。管理が難しい方には買い物に同行していただき買い物を楽しんでいただいている。		家族とも相談の上、買い物に出掛けた場合にはお財布を持ってもらい、支払いまで本人ができるよう支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や状態を考慮の上、できるだけ散歩など外出の機会を作っている。車椅子なども利用し、多くの方が戸外で気持ちよく過ごせるよう配慮している。		車で出掛ける際も緑の多い場所を通り、季節を感じていただいている。

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人や家族の希望に添って、旅行や食事、一時帰宅や墓参りなどの支援を行っている。		家族と相談しながら個別に対応していきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて手紙や電話・時候のあいさつなどのやりとりを支援している。		今後も継続できるように配慮したい。
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問に関しては制限を設けていない。また居心地良く過ごせるよう、あいさつ、お茶の用意など配慮している。		写真なども見ていただき、ホームでの生活の様子をみていただいている。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。また身体拘束に関する勉強会を実施するなど、理解を深める機会を設けている。		目配り、気配りに心掛けている。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室への施錠は行っていないが、職員の配置や建物の構造、利用者の状況を考慮の上、施錠を行っている場所もある。		職員間で利用者の安全を確保しつつ鍵をかけないで過ごせるか話し合っていきたい。

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者の所在、様子には気を配っている。夜間は状況を確認しやすい位置に待機している。		職員がその場を離れる際もお互い声を掛け合っている。また情報交換している。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態に応じて爪切りや塗り薬など、危険の少ないものに関しては本人に管理してもらっている。利用者個々に応じた管理や保管の方法を常に話し合い決定し、職員が理解している。		今後も継続していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人グループ全体としても情報を共有し対策を講じている。		ヒヤリハットを活用していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的な訓練は行っていない。		法人内の病院や地域の消防署などにも働きかけて実施していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同一敷地内のケアハウスと合同で防災訓練を行っている。		定期的なミニ訓練を多く実施するとともに、より一層地域の人々の協力が得られるように取組んでいきたい。
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測できるリスクについては機会あるごとに家族に説明し話し合っている。		今以上に普段の関係作りに心掛け、リスクに対する家族の理解を深めていきたい。また積極的にホームの方針を示していきたい。

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日のバイタルチェック、生活のリズムなど情報を報告し合い早期発見に努めている。必要に応じ速やかにかかりつけ医に相談している。</p>	<p>今後も早期発見に努めたい。</p>
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の目的、副作用、用法、用量については理解している。飲み忘れ、薬が足りているか注意を払っている。また日常の記録を医師に伝え服薬調整している。</p>	<p>より一層医療機関と連携し支援していきたい。</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>自然排便を促すために食べ物、飲み物など工夫している。腸に良い食品や適度な運動を取り入れ予防対応している。</p>	<p>ご家族や主治医と相談しながら行ってきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、個別にうがいや義歯洗浄を促し口腔内の清潔に努めている。また週1回入れ歯洗浄剤を使用している。</p>	<p>継続して行ってきたい。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>栄養のバランス、水分量など注意している。お茶以外の時間にも水分が取れるようにしている。</p>	<p>病院とも連携し支援していきたい。</p>

グループホームなごみ(東雲)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防としてうがい、手洗い、消毒を実施している。病院より情報を得るとともに法人内の研修会などを通じ理解を深めている。		法人内で情報を交換し対策を講じている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具などの衛生管理、調理する人の衛生管理、安全な食材の使用に努めている。		継続して行っていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに緑を置いたり花を植えたりして親しみ易く暮らしの場所として、威圧感がないよう配慮している。		建物の周りにも花を植え家庭的な雰囲気をもてるよう配慮している。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には生け花や観葉植物を置き、廊下の壁には古典的なのれんを掛けるなど、落ち着いて過ごせるよう配慮している。また西日などに配慮した簾なども掛けている。		居心地のよい環境となるよう、引き続き継続的に整備を実施していく。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にソファを置き一人になったり、気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫している。		精神面も考慮し座る場所に気を配っている。

グループホームなごみ(東雲)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し、居室には以前から使用していた家具や使い慣れた調度品を置いている。		花を飾ったり写真を飾ったり本人の好みを大切にしながら環境作りを行っている。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一人ひとりの状態や反応を見ながら自然に近い換気や空調を心掛け、体調の乱れや気分が落ち込まないようにこまめに行っている。		継続して行っていきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合った道具を使用している。		ADLの変化にできるだけ早く対応していききたい。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	不安や混乱を招かないよう環境に配慮し、繰り返し説明して不安を取り除くよう、一人ひとりの状態に合わせて工夫している。		認知度の変化にできるだけ早く対応していききたい。
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダにはいつでも出られるようにし植物の手入れや水やり、洗濯物を干したり取り込んだりできるようにしている。敷地内の空いた土地を利用し野菜を栽培し、利用者の楽しみのひとつにしている。		今後も利用者のニーズに合わせて活用していききたい。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取り組みの成果 (該当する箇所に つけること)
項目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームなごみ(東雲)

項目		取り組みの成果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

認知症の方にとって最も大切なことは「この場所は安心の場であり、この人は安心を与えてくれる人である」と感じていただくことだと考えています。室内外に緑や花を多く配置し、暖簾などで季節感を出すことによって、潤いと癒しと和みを感じながら、優しさのあふれる環境の中で生活していただけるよう心掛けています。そしてひとつひとつの接遇を大事にすることで、いつも大切にされているという心地良い幸せを感じていただけるよう、日々のかかわりに努めています。安心して暮らせる日常の場を提供することはもちろんのことながら、なによりもおひとりおひとりの心を大切にすることが重要だと考えています。

またご家族に日々の様子を知っていただけるよう、毎月の状況をお知らせする通知をお送りしたり、おひとりおひとりにアルバムとノートを作り来られたときに見ていただいたりしています。ご家族にとっても様子がわかることが安心して利用されることになることから、ご家族と情報を共有して支援させていただくことを心掛けています。

さらに往診診療と訪問看護を活用することにより、これまで以上の安心を提供できるようになりました。